

第 43 回 生活習慣病教室

「変形性関節症 ～膝・股関節を中心に～」

■日 時：平成 26 年 2 月 24 日（月） 14 時半～15 時半

■場 所：牛久愛和総合病院 B 館 2 階大ホール

■講 師：整形外科 梅原 新英 医師

◆変形性関節症とは

関節軟骨の変性、摩耗や関節周囲の骨の変化をきたす進行性の病気です。全身の関節に起こり得るもので、下肢では膝と股関節に多い。原因は加齢、肥満、過度の負担、遺伝、関節の形成不全（股関節）関節部の骨折や靭帯損傷などの外傷で、女性の方に多くみられる。

◆症状

関節痛、関節の腫れ（関節水腫）、見た目の変形（ヘバーデン結節、O 脚）、関節の働きの低下、

跛行（はこう）

◆治療

保存的治療と手術の 2 通りの方法がある。保存的治療で効果がみられない場合は手術が選択されます。

◆当院の変形性股関節治療

保存的治療

- ・生活指導・・・適度な運動や食生活の見直し、減量など。
- ・薬物治療・・・湿布、塗り薬、痛み止めの服用。
- ・理学療法（リハビリ）・・・関節可動域訓練や歩行能力の維持、改善。

外科的手術（手術）

- ・寛骨臼回転骨切り術：12 歳～50 歳頃までの方が対象
軟骨が残っていて、臼蓋形成不全があり痛みがある方に適応。
股関節の形態を正常に近づけることにより除痛、関節症の進行の防止を図る
- ・人工股関節置換術：人工関節の耐用年数から考えて 50 歳以上の方が望ましい（耐用年数は 20～30 年）。軟骨が消失しており、痛みが強い方。術後魔法のように痛みが無くなる。

◆当院の変形性膝関節症治療

保存的治療

- ・変形性股関節の治療と同様、生活指導、薬物療法、理学療法を行います。
- ・変形性膝関節症は、関節内注射を行う場合もあります。
 - 1) 炎症を抑えるために関節軟骨の成分であるヒアルロン酸を注入する方法
 - 2) 炎症がひどいときのみ行うステロイド剤を注入する方法

外科的手術（手術）

- ・人工膝関節置換術：人工関節の耐用年数から考えて 50 歳以上の方が望ましい（耐用年数は 20～30 年）。軟骨が消失しており、痛みが強い方。術後魔法のように痛みが無くなる。

[過去の「生活習慣病教室」はこちら](#)